

令和8年度 病害虫発生予察情報

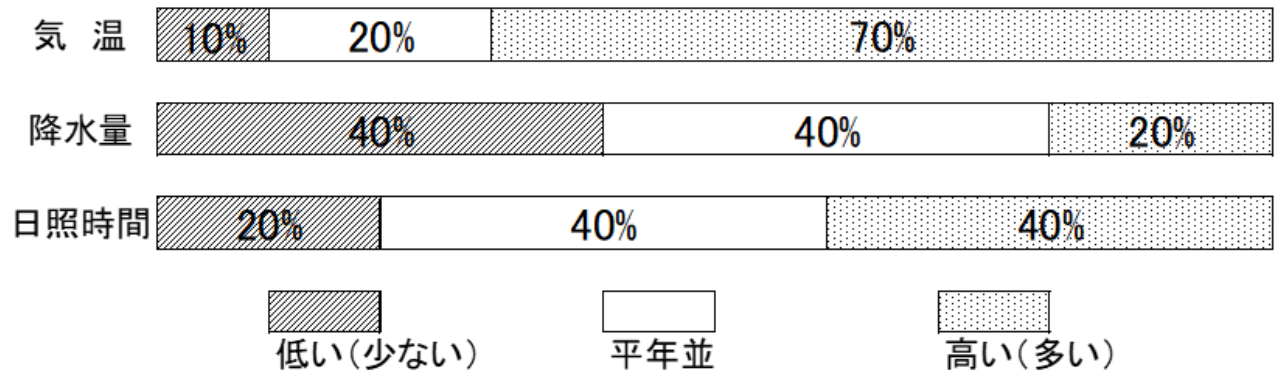
発生予報第6号（8月）

令和8年7月31日
島根県

予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量	
普通作物	イネ	穂いもち	平年並～やや多い	
		紋枯病	平年並～やや多い	
		白葉枯病	平年並	
		ニカメイチュウ	やや少ない	
		ツマグロヨコバイ	やや少ない～平年並	
		セジロウンカ	平年並	
		トビイロウンカ	平年並	
		コブノメイガ	やや多い	
		斑点米カメムシ類	やや多い～多い	
		果樹	ダイズ	ハスモンヨトウ
果樹	ナシ	黒斑病	やや少ない	
		シンクイムシ類	平年並～やや多い	
		ハダニ類	平年並～やや多い	
		カメムシ類	やや多い	
		カキ	うどんこ病	少ない
		カキミガ	平年並	
野菜	アブラナ科野菜	カメムシ類	やや多い	
		ハスモンヨトウ	平年並～やや多い	

中国地方1か月予報(8月1日～8月31日・広島地方気象台7月30日発表)
 ＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)＞



A. 普通作物

1) イネ

(1) 穂いもち

予報内容

発生地方

県内全域

発生量

平年並～やや多い

予報の根拠

- 7月下旬の巡回調査（70ほ場）では、葉いもちの発生ほ場率が8.6%（平年7.3%）、発病株率が1.3%（平年2.3%）と、発生量は平年並みである。
- 県内の一部で発生の多いほ場も見られ、全般の発生量は平年に比べてやや多い。
- 向こう1か月の気象は、本病の発生にやや抑制的である。

(2) 紋枯病

予報内容

発生地方 県内全域
発生地方 平年並
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 7月下旬の巡回調査では、発生ほ場率が12.9%（平年12.1%）、発病株率が0.8%（平年1.4%）と、発生量は平年並みである。
- ② 向こう1か月の気象は、本病の発生（発病株での上位進展）にやや助長的である。

(3) 白葉枯病

予報内容

発生地方 県内常習発生地帯
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 7月下旬の巡回調査では発生を認めていない。
- ② 向こう1か月の気象は、本病の発生にやや抑制的である。

(4) ニカメイチュウ（第2世代）

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 7月下旬に実施した巡回調査の結果、本種の発生ほ場率が0%（平年3.2%）、被害株率が0%（平年0.1%）と、本種の発生量は平年並みである。
- ② 7月第5半旬までの予察灯（出雲市）における誘殺数が13頭（平年99.6頭）、フェロモントラップ（出雲市）における誘殺数が15頭（平年100.9頭）と、誘殺数は平年に比べて少ない。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生に助長的である。

(5) ツマグロヨコバイ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや少ない～平年並

予報の根拠

- ① 7月下旬に実施した巡回調査の結果、発生ほ場率が31.1%（平年36.4%）、捕獲数が3.3頭/50株（平年6.0頭/50株）と、本種の発生量は平年並みである。
- ② 7月第5半旬までの予察灯（出雲市）での誘殺数は16頭（平年90.2頭）と、誘殺数は平年に比べてやや少ない。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生に助長的である。

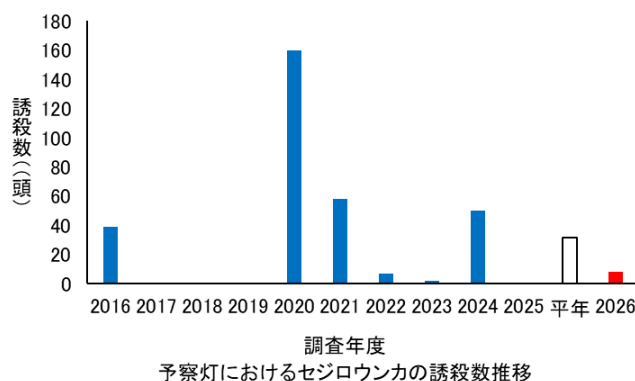
(6) セジロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 7月下旬に実施した巡回調査の結果、発生ほ場率が62.2%（平年62.3%）、捕獲数が11.1頭/50株（平年25.3頭/50株）と、本種の発生量は平年並みである。
- ② 7月第5半旬までに空中ネットトラップ（出雲市）においては捕獲を認めていないものの、予察灯（出雲市）において8頭（平年31.7頭）、粘着板誘殺灯において6頭（平年35.6頭）が誘殺されており、誘殺数は平年並みである。



③向こう1か月の気象は、本種の発生に助長的である。

(7) トビイロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並

予報の根拠

- ①7月下旬に実施した巡回調査の結果、ほ場での本種の発生は認めていない。
- ②7月第5半旬までに予察灯（出雲市）、粘着板（出雲市）、ネットトラップ（出雲市）では本種の誘殺を認めていない。
- ③向こう1か月の気象は、本種の発生に助長的である。

(8) コブノメイガ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 やや多い

予報の根拠

- ①7月下旬に行った巡回調査の結果、被害発生ほ場率が48.9%（平年21.0%）、被害株率が8.3%（平年3.0%）と本種による被害は平年に比べてやや多い。
 - ②7月第5半旬までに予察灯（出雲市）及びネットトラップ（出雲市）では本種の誘殺を認めていないものの、粘着板誘殺灯（出雲市）においては2頭（平年0頭）が誘殺されており、誘殺数は平年に比べてやや多い。
 - ③向こう1か月の気象は、本種の発生を抑制する要因とはならない。
- 注）令和8年度 病虫害発生予察情報 技術情報 第6号参照

(9) 斑点米カメムシ類

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 やや多い～多い

予報の根拠

- ①7月下旬に実施した早生品種ほ場でのすくい取り調査の結果、斑点米カメムシ類の発生ほ場率が45.7%（平年59.6%）、平均捕獲虫数が7.1頭/20回振り（平年4.7頭/20回振り）と、斑点米カメムシ類の発生量は平年に比べてやや多い。主要種はクモヘリカメムシである。
 - ②イネカメムシ成虫の発生ほ場率は28.6%、平均捕獲虫数は1.7頭/20回振りであった。また、幼虫の発生も認められており、本種幼虫の発生ほ場率は20.0%、平均捕獲虫数は1.5頭/20回振りであった。
 - ③7月第5半旬までの予察灯（出雲市）における斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメおよびアカヒゲホソミドリカスミカメ）の合計誘殺数は255頭（平年191.7頭）と平年に比べてやや多い。
 - ④向こう1か月の気象は、本種の発生に助長的である。
- 注）令和8年度 病虫害発生予察情報 注意報 第3号参照

2) ダイズ

(1) ハスモンヨトウ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ①7月第1半旬～第5半旬までのフェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の累積誘殺数は、県東部で112頭（平年258.4頭）と平年並み、県西部で17頭（平年107.7頭）と少ない。
- ②7月下旬の巡回調査では、ダイズほ場での本種幼虫による被害（白変葉）は県東部で認めていない。
- ③向こう1か月の気象は、本種の発生に助長的である。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 県内「二十世紀」栽培地帯
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 7月下旬の巡回調査では、発病葉率 7.2%（平成 9.6%）と、発生量は平年に比べてやや少ない。
- ② 向こう 1 か月の気象は、本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生時期 平年並
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① フェロモントラップ（出雲市）でのナシヒメシンクイ第 1 世代の雄成虫の誘殺盛期、誘殺数はともに平年並みである。
- ② 向こう 1 か月の気象は、本種の発生に助長的である。

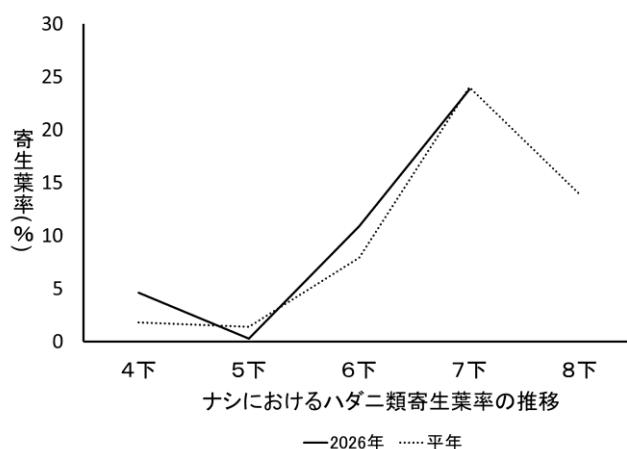
(3) ハダニ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 7月下旬の巡回調査では、寄生葉率 23.8%（平成 24.0%）と平年並みである。
- ② 一部で発生の多いほ場が確認された。
- ③ 向こう 1 か月の気象は、本種の発生に助長的である。
- ④ クワオオハダニがみられるほ場も散見される。クワオオハダニに効果の低い薬剤があるので薬剤の種類には注意が必要である。



(4) カメムシ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生量 やや多い

予報の根拠

- ① 7月の予察灯でのチャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシ、アオクサカメムシ 4 種の合計誘殺数は 2674 頭（平成 1773.5 頭）とやや多い。
 - ② 向こう 1 か月の気象は、本種の発生を抑制する要因とはならない。
- 注）令和 8 年度 病虫害発生予察情報 注意報 第 2 号参照

2) カキ

(1) うどんこ病

予報内容

発生地方 県内カキ栽培地帯
発生量 少ない

予報の根拠

- ① 7月下旬の巡回調査では、発病葉率 0%（平成 2.7%）であり、発生量は平年に比べて少ない。
- ② 向こう 1 か月の気象は、本病の発生に抑制的である。

(2) カキミガ（第 2 世代）

予報内容

発生地方 県内カキ栽培地帯
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 7月下旬の巡回調査では、第 1 世代幼虫による芽及び果実の被害は平年並みである。
- ② 向こう 1 か月の気象は、本種の発生に助長的である。

(3) カメムシ類

予報内容

発生地方 県内カキ栽培地帯

発生量 やや多い

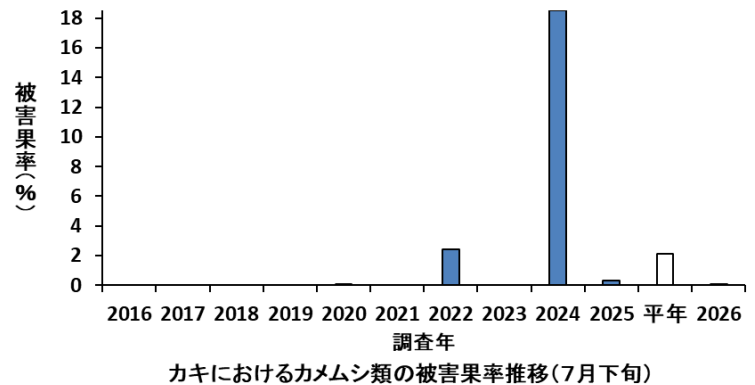
予報の根拠

① 7月の予察灯でのチャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシ、アオクサカメムシ4種の合計誘殺数は2674頭(平年 1773.5 頭)とやや多い。

② 7月下旬の巡回調査では、カキの被害果率は0.1%(平年 2.1%)、過去10年で4番目となり平年並みである。

③ 向こう1か月の気象は、本種の発生を抑制する要因とはならない。

注) 令和8年度 病虫害発生予察情報 注意報 第2号参照



C. 野菜

1) アブラナ科野菜

(1) ハスモンヨトウ

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

① 7月第1半旬～第5半旬までのフェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の累積誘殺数は、県東部で112頭(平年 258.4 頭)と平年並み、県西部で17頭(平年 107.7 頭)と少ない。

② 本種幼虫の発生はダイズほ場で認めていない。

③ 向こう1か月の気象は、本種の発生に助長的である。

【参考となる事項】

※最新の農薬登録状況

農林水産省ホームページに、農薬登録情報提供システムが掲載されています。

農林水産省農薬登録情報提供システムのアドレスは <https://pesticide.maff.go.jp/>

島根県病虫害防除所

(島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫科)

〒693-0035 出雲市芦渡町 2440

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

ホームページアドレス

https://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/gijutsu/nougyo_tech/byougaityuu/

e-mail boujyo@pref.shimane.lg.jp